



平成 22 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 大 幸 薬 品 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柴 田 高
(コード番号：4574 東証第一部)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 財 務 本 部 長 吉 川 友 貞
(TEL. 06-6382-1135)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

平成 23 年 3 月期連結会計年度（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益（円）
前回発表予想（A）	6,847	944	956	664	51.99
今回発表予想（B）	4,312	△1,853	△1,860	△2,256	△176.18
増減額（B－A）	△2,534	△2,797	△2,816	△2,920	
増減率（%）	△37.0	—	—	—	
（ご参考）前期実績	8,816	2,489	2,531	1,645	128.97

修正の理由

（医薬品事業）

当連結会計年度（以下、通期）の医薬品事業につきましては、重点エリアである中国本土において、販売のためのライセンス更新に伴う一時的な出荷停止影響に加え、当初想定しなかった現地卸売事業者の再編に伴う流通在庫の滞留等により販売代理店側が一時的に仕入計画を見直したこと、また、急速に進行した円高の影響等から、海外市場向け売上高は当初の計画を下回る見通しとなりました。海外市場向けの未達に加え、大半を占める国内市場向けも計画比微減の見通しであることから、通期の医薬品事業の売上高は前回予想比202百万円減（4.3%減）となる4,510百万円を予想しております。

（感染管理事業）

当初は、新型インフルエンザ収束後の衛生管理製品の需要縮小と異例な返品発生により、第1四半期は低調な業績推移となる一方、第2四半期以降は衛生対策意識が秋口に向けて徐々に高まり、新たなスティックタイプのゲル剤の発売や製品認知度向上に向けた広告強化等により、第3四半期の初めには当社製品需要も再び拡大するものと想定しておりました。しかしながら、卸売事業者や小売店等が前期より有する流通在庫の解消が想定通りには進まず、上期の売上高は、返品金額が出

荷金額を上回るマイナス売上高となりました。下期につきましても、現時点では、依然、流通市場での荷動きに顕著な改善が見られず、当社製品の受注状況も極めて低調であることから、保守的に上期同様、出荷金額を上回る返品が発生を見込むことと致しました。衛生管理製品「クレベリン」シリーズの認知度向上に向けたTVコマーシャル放映等、広告強化や店頭での販売促進に引き続き努めるものの、現状では需要予測が極めて困難であることから前回の予想売上高を大幅に修正せざるを得ず、この結果、通期の感染管理事業の売上高は、前回予想比2,320百万円減となる△221百万円を予想しております。

なお、今回発表予想の売上高におけるセグメント別内訳は以下の通りであります。

セグメント別連結売上高(平成23年3月期連結会計年度)

(単位：百万円)

	医薬品事業	感染管理事業	その他事業	売上高合計
前回発表予想 (A)	4,712	2,099	34	6,847
今回発表予想 (B)	4,510	△221	23	4,312
増減額 (B - A)	△202	△2,320	△11	△2,534
増減率 (%)	△4.3	—	△33.9	△37.0
(ご参考) 前期実績	4,851	3,931	33	8,816

(損益面)

大幅な感染管理事業の収益悪化に加え、同事業に係る当社の在庫も高留りの状況にあることから、保管料の削減や在庫水準の適正化を目的として、期末に向け製商品の廃棄や減損処理を進めてまいります。これにより売上総利益が大幅に減少する一方、販売費及び一般管理費が費用構造上、売上高の減少に必ずしも比例しないことに加え、現状の流通在庫の解消を図るべく、下期の広告宣伝費を増額する方針であることから、通期の営業損益は、大幅な損失を予想しております。また、上期に計上した投資有価証券評価損及び固定資産の減損損失等の特別損失や、繰延税金資産の一部取崩しによる法人税等調整額計上の影響もあり、通期の純損益も、同様に損失を予想しております。

なお、上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上